

## 基調講演

### 「飼い主力と防災力 ペットと家族の防災対策」

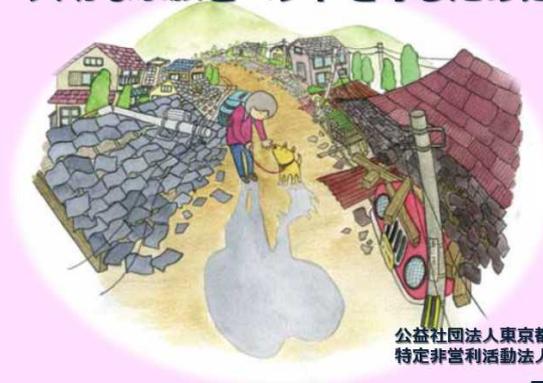
～大切な家族とペットを守るために～

平井潤子(ひらい じゅんこ)  
公益社団法人東京都獣医師会  
会事務局長／特定非営利活  
動法人アナイス 理事長



### 「飼い主力」と「防災力」 ペットと家族の防災対策

～大切な家族とペットを守るために～



公益社団法人東京都獣医師会事務局長  
特定非営利活動法人アナイス 理事長

平井潤子

今日は「自助」という言葉を、「飼い主力」、「防災力」という言葉に置き換えて、会場にもいらっしゃる飼い主さんに、どんな備えが必要か、何が大事か、ということをお話しさせていただきます。

家族の一員であるペットを災害から守るためには、いろんな備えが必要になります。

例えば1週間分の飲料水とペットフード、ペットシートやキャリーバッグなどの飼育用品です。また、インターネットで「ペット」「防災用品」という言葉を入れて検索されれば、いろんな商品が紹介されています。こういった「物」の準備は大切です。しかし、本当にそれだけで大丈夫でしょうか？

それでは、まずは「知る」ことから始めましょう。

YouTubeでご覧になれる、阪神淡路大震災の震度7の揺れの映像をご紹介します。

これは、コンビニエンスストアに設置されていた防犯カメラの映像です。陳列しているものがバタバタと崩れていく、人が立ってられない状況であることがお分かりになります。今日、この会場にいらっしゃっている皆様のご自宅はいかがでしょうか。ショップなどを経営してらっしゃる方は、店舗の対策はいかがでしょうか。

この大きな揺れの中で、子供やペットを連れ、さらに貴重品を持ち、避難することができるかどうかを考えてみてください。そもそもペットや家族と一緒にいない、という状況もあり得るのです。今、災害が起こったら自分はどう行動するのか、と考えることから、防災対策がスタートするのだと思います。

倒壊家屋の様子も、注意深く見てください。

報道などで被害の様子を見る時には「大変だったな」、「辛い思いをされてるんだろうな」とお感じになると思います。しかし、映像から学ぶこともあります。

もちろん、その建物の構造などによって条件は異なると思いますが、これがオールマイティの対策になるとは思いませんが、例えば家を留守にする場合に、地震に備えるのであれば、ペットが留守番する部屋は、倒壊する危険性が少ない2階にするよう工夫することが、助かる可能性を高めるのではないかと思います。

被災地の様子をただ漠然と見るのではなく、ではこういった状況の中で、自分はどう備えればいいのかということを意識しながら見ていただく。これが、飼い主さんの防災力になるのだと思います。



目指すことは、家族全員が無事に避難し、そこに家族の一員であるペットもいること。あるいは、別々の場所にいたけれども家族全員が無事に再会し、一緒に災害を乗り越えていくこと、なのです。

そのためには皆さんがお過ごしになっている場所をまず見直す、ペットがいる場所を見直すことからスタートしていただければと思います。小さなお子さんや高齢者にとって安全な場所は、そこに住むペットにとっても安全な場所、という考え方です。

ペット防災セミナーには意識の高い方が来てくださいます。そんな時、参加者からのご質問の中に、「うちの子（ペット）さえ助かれば私はどうなってもいいんです」というコメントをいただくことがあります。でもその考え方は間違っていると思います。

ペットを守りたいのであれば、まずは自分が助かるように、家族が助かるように備えることだとお伝えしております。それが飼い主力＝防災力を高めることになるのです。

まずは室内を見回してください。例えば家具の転倒防止対策はできているでしょうか。

先ほど国崎先生からお話しがありましたが、マンションでも3階部分と10階部分では揺れが違っておりますので、お住まいの階によって対策も違ってくると思います。

平成19年に発生した新潟中越沖地震では、倒れた家具の下敷きになり、小型犬のパピヨンが亡くなったというケースがございました。小型の犬や猫、小動物にとっては、家具も危険物になります。

亡くなったパピヨンの飼い主さんは、犬の用品やフードが必要なくなったので、と、現地に設置された動物救護本部に寄付しに来てくださいました。本当に心の優しい飼い主さんでした。家具の対策、地震対策さえできていれば、被災した彼女を励ますために、今、そのパピヨンが彼女のそばに寄り添っていたのにな、と思うと、切ない気持ちになったのを思い出します。

また、窓ガラス、家具のガラスの飛散防止対策も大切です。

平成26年の熊本地震では、ガラスが飛び散ってしまった室内で逃げ惑ったペットが肉球を怪我してしまったという報告もあります。

この飛び散ったガラスは、飼い主の避難の妨げにもなりますが、一旦避難した後、部屋に戻ったときもぜひご注意ください。掃除機で吸い取ったり、箒で掃いたりして、きれいに取り除けたと思っても、床のクッションフロアやフローリングにガラス片が突き刺さっていることがあります。ですので、人はスリッパを履いていて気づかないけれども、帰宅直後に犬や猫を放してしまえば、それがまた脚の裏を傷つけるということになりますので、本当に安全かどうかを確認できるまでは、例えば掃除をした後でも床に新聞紙を敷く、ブルーシートを敷く、という対策をしていただくことをお勧めします。

また、留守番中のペットの居場所は安全でしょうか。調度品などもその大きさや重さによっては、当たりどころが悪ければ、ペットにとって致命傷になってしまいます。

であれば、例えば頑丈な家具を固定し、倒れない状態にしておき、そのそばにペットの居場所を用意するなどの工夫をされてもいいのではないかと思います。

一戸建てであれば1階よりも2階の方がいい、と申し上げましたが、例えば2階の押入れの下段に、頑丈な押入れ家具を用意され、それをきちんと固定をしておく。そしてその隙間にペットが逃げ込めるような、安全なスペースを用意することで、「そこに逃げ込めさえくれれば、生き延びる可能性につながる、」という風にお考えいただければと思います。

中には、家の中でも柱と壁が多いトイレのドアを固定して、ペットが逃げこめる室内のシェルターを用意されている方もいらっしゃいます。

その家の作りによって、ペットが逃げ込める場所というのは様々ですが、一部屋だけ、またはペットの居場所だけは安全にしておく、という対策であれば、今日からでもできると思います。

そして「物」の準備も大切です。

餌や水なども、常に一定量備蓄し、1袋消費したら1袋買い足す、という、ローリングストック方式で備蓄しておくことで、備蓄している物の賞味期限が切れてしまう心配がな

くなります。災害時にはインターネット購入もできなくなります。アレルギー対応食をペットに与えている場合には、常に食べているメーカーの製品が手に入らない可能性も生じますので、類似している、あるいは同じ効果があるフードは何なのか、ということも、ぜひ調べておいてください。

## 備えておく「もの」を考えてみよう！

### □ フードや水の 買い置きはありますか？

常に一定量の  
備蓄をするため、  
1袋消費したら、  
すぐに1袋買い足す  
「ローリングストック方式」で  
備えましょう！



これがローリングストック方式！

また、動物病院で処方いただいた治療食を食べている場合は、同じ効果がある別のメーカーさんのフードや類似した効果があるフードなども、ぜひ、調べておくことをお勧めいたします。

薬や療法食のストックは、余分がある段階で次の薬をもらい、十分な量をストックしておいてください。

ホテル業の方でペットを預かる際、薬や特別なフードとともにペットを預かる場合には、ぜひゆとりを持って預かってください。3日間預かるから3日分の食事を預かる、では、3日目に災害が起こった場合、飼い主さんが旅行先から帰れない、そしてフードや薬は無くなっている、という状態になってしまいます。

ですので、それがないと健康に関わる物、命に関わる物は、十分にストックする、あるいは預ける場合にも、十分な量をお預けする、ということを考えていただければと思います。

その他には、リードや首輪は用意できているでしょうか。

犬は避難時に避難所敷地内で繋留するということがありますが、そんな時に、抜けやすいタイプの胴輪やリードや伸縮性のリードは、繋留に適していません。

避難所の敷地内に動物を繋留しておいて、飼い主さんがペットから離れている時に、大きな余震が起こり、パニックになってしまうと、ペットは逃げ出したい一心で暴れ、首輪などを抜いて逃げてしまうということがあります。

これが大型犬では、繋留していたリードを噛みちぎってしまうこともあるのです。

そのような状況下で繋留する場合には、例えばワイヤーが中にとおっているタイプのリードであるとか、軽いチェーンのリードを用意したり、胴輪しか持っていないのであれ

ば、胴輪に加えて首輪を準備し、逃げ出し対策をするなどご準備いただければと思います。

また、避難に必要なキャリーバッグは猫やその他小型のペットの飼い主さんには必須アイテムだと思います。特に複数の動物を飼育している飼い主さんは、どうやって運ぶか、ということも考えておかねばなりません。自分しか家にいない時に災害が起こったらどうするのか、避難の方法をご検討いただければと思います。

その他の飼育用品も準備できているでしょうか。意外に忘れがちなのが、排泄物の処理袋です。また、非常に重い物を持ち出すことが安全な避難を妨げることにならないようにしてください。猫のトイレ用の砂1袋を持って運ぶだけでも大変です。大型犬用のバリケーンやケージを抱えて避難するということも現実的ではありません。保管場所を工夫し、後から持ち出せるようにするのも一案です。

「こと（ソフト）」の備えも大切です。

たとえ避難の途中にはぐれてしまっても、家族が再会できるように、そして、そこにペットが同行できるように、家族全員の行動や待ち合わせ場所を申し合わせておくということも非常に大事なことです。特に小さなお子さんがいるご家庭では、家族単位の避難訓練をしてみてください。家族全員、別々の場所にいる時に災害が起こったら、まず自分はどの行動するかということを考えてみてください。

とにかく、いつも「今災害が起こったらどうする？」ということシミュレーションし、その対策を考えていくことが防災力を上げるために大事なポイントになってくると思います。

例えば、待ち合わせの場所は「小学校の体育館の入り口」などと具体的に決まっていれば、たとえ避難の混乱の中で家族とはぐれても、再会できます。

また、指定されていた避難所が被災する可能性もありますので、避難先の二次候補、三次候補を決めておくということも大切です。

そして避難する際に活躍するのが貼り紙です。「ガムテープ」と「マジックペン」を用意して、ガムテープにマジックで書いた伝言を貼る場所を避難所の中に決めておけば安心です。

子供さんや高齢者の方が、災害伝言ダイヤル等を使い難いのであれば、遠方の親戚の家を連絡先にして、そこにみんなそれぞれ電話するという方法もあります。

発災直後、公衆電話や固定電話が繋りやすい状況がありましたので、一つの方法だけでなく、複数のいろんな方法を準備しておくということが大事だと思います。

非常にアナログな方法なのですが、紙に書いて伝言を残すということも有効な情報伝達の方法です。こういった紙ベースの伝言も重要な備えとして覚えておいていただければと思います。

そして大切な「こと（ソフト）」の備えがペットのしつけです。

「社会化」は、飼い主さんにしかできない災害対策だと思います。

人懐っこく育てる、社会化する、ということは、いろんなメリットに繋がります。

## 備えておく「こと」を考えてみよう！

### □ ペットのしつけはできていますか？

**犬の場合、大勢の人や動物がいても  
落ち着いていられるように育てることが、  
避難所への受け入れにつながります。**

**人懐っこく育てることで、  
はぐれた時にも  
保護してもらいやすくなる  
メリットがあります。**



飼い主さんとはぐれてしまった場合に、人懐っこい犬の方が保護しやすい、というメリットにもなるのです。人に対して、社会に対して、慣れていくということも重要な災害対策である、という風にお考えいただければと思います。

災害発生時や避難時には、ケージに入る機会が多くなります。

益城町のワンちゃんハウスについても、最初、犬や猫をケージに入れるということに抵抗があったという飼い主さんが、たくさんいらっしゃったと伺いました。しかし、ケージに入れることに慣れてくると、反対にケージに入れることが安心になるということも伝わったということを伺っております。災害時だけでなく平時にも体調を崩して入院する場合や、あるいは飼い主さんの事情でペットホテルに預けるなど、いろんな時にケージに入るということが必要になりますので、ケージに入る練習をしておかれると役立つと思います。

また、一人暮らしの方は自分に何かあった時にペットをどうするのか、ということも考えておかなければいけません。

地域でのコミュニケーションをはかっておくことも大事な災害対策です。

例えば毎日のお散歩仲間に会った時に、「同じ避難所に行った時にどうする」、ということをお話し合っておくだけでも、共助の仕組みがスタートします。ペット可の集合住宅であれば、飼い主さん同士が連絡網を作っておけば安心です。このような「共助」は、災害時には非常に重要になってきますので、地域コミュニケーションをはかることが、共助の第一歩だと考えていただければと思います。

迷子対策も重要な「こと」の準備です。

犬であれば「鑑札」の装着が義務ですが、迷子札、マイクロチップ、そういったツールを二重三重に備えておくことが、飼い主さんとペットをつなぐ絆を強くすることになると思います。

また、ペットの健康管理も大切な備えです。

避難所には多くのペットが集まってきますし、例えば急遽、ペットホテルなどに預ける場合にも、ワクチン接種やノミダニの予防というものが必要になってきます。かかりつけの動物病院で定期的に健康診断をし、平常時の数値、例えば血液生化学検査を行っておくことが、災害発生時の異常の早期発見につながります。基礎データを持っておくということも、非常に重要な備えである、という風にお考えいただければと思います。

家族や仲間と災害対策会議を開き、実際に災害が起こった時に、どんな助け合いができるか、ということ話し合っておくことも大切です。この「仲間」には、犬であればお散歩仲間もあるでしょう。特殊な動物飼ってらっしゃる方は、インターネットなどのコミュニティではないでしょうか。そういった関係を利用して、お互いに助け合うことを考えていただくことが重要です。また、信頼できるホームドクターを徒歩で行ける場所に見つけておくということも、大事な備えになってくるかと思えます。

避難生活での注意点も考えてみましょう。

最近では、避難所にペット飼育スペースが用意されるようになってきています。中には平時から「ここをペット飼育スペースに」と決めている避難所もあるほどです。

そこで注意点なのですが、私たちは今まで、動物が苦手な方やアレルギーがある方と動物とをどう分離するか、住み分けするか、ということを考えてきました。

が、結果として、動物に近づいてしまうのは動物が好きな人である、ということが分かってきました。好きな人が犬に近づき、飼い主さんが知らないうちに食べ物をあげてしまったり、あるいは不用意に手を出してしまい咬傷事故に繋がることもあります。また子供さんがペット飼育スペースに入り込み、ケージのドアを開けて中の犬を触り、そしてドアをきちんと閉めずに立ち去ってしまえば、飼い主さん行ってみたら中の犬がいなくなっているって事故も起こります。

特に子供さんは犬の状態を見分けることができません。「尻尾を振ってるから喜んでい」と、犬に手を出してしまうこともあります。なので、注意書きはひらがなで、犬のイラ스트そえているのは、子供さんに気づいていただくためです。このように、動物好きな人対策というの、今後の検討課題に入ってくると思えます。

そして、子供さんがうっかりケージの扉を開けてしまうなど、動物の逸走事故が起こることを考えれば、迷子対策も必要になってきます。

岩手宮城内陸地震の時は地元獣医師会が、ペット飼育スペースにいる犬にもれなく迷子札つけて下さいました。迷子札がない場合には、ガムテープとマジックペンさえあれば、例えば首輪にガムテを巻いて、そこにマジックで書いてしまう方法もあります。

迷子対策として飼い主明示をきちんとする、それも、あるもので工夫する、ということも非常に重要なポイントではないかと思えます。

また、避難生活は避難所に行くばかりではなく、自宅で避難する、自宅で飼育する、知人、シェルターに預ける、病院、ペットショップに預ける、こういういろんな避難の形があることを知っておくことが大事です。

そして、避難方法について様々なシミュレーションをしておくことが、『この避難方法がダメだった時にこちら、これがダメだった時にはこの方法…』という選択肢に繋がると思えます。

「自分たちでなんとかする」、という取り組みも必要です。

新潟県中越大震災の避難所で、近隣の建設会社からテントが借り、ブルーシートで側幕を作り、ペットの飼育スペースを用意した事例がありました。

避難所の外にも目を向けて、近隣からの支援を受ける、ということもお考えいただければと思います。

そして、迷子対策のもうひとつのヒントとして、迷子探しポスターもあらかじめ作っておいておくことを提案しています。『発災直後にいなくなった！ すぐに探し始めたい！』と思っても、避難所では紙もなく、停電になっていればプリンターも動かない、印刷もできない、直ちに探し始めることができない、という状況に陥ります。

であれば、例えばご家族で年に一回、年中行事として、自分が飼育しているペットの迷子ポスターを作るなどの対策をされてもいいのかな、と思います。

## ただちに搜索を開始するために 迷子探しポスターを作っておこう！



猫を探しています  
(赤い首輪をしたシムネ)  
23日の地震の頃から  
いなくなりました。  
みかけた方は連絡を  
お願いします。  
上村 木津18班  
平成16年10月23日から40日後  
新潟県中越大震災 長岡市新産体育館

www.akaihane.or.jp



探しています

**発災直後は停電**

**避難所では  
印刷もできない**

**一刻も早く探したくても  
ポスターが作れない**

迷子対策にはマイクロチップを検討ください。

本当に小さいものですが、抜け落ちることがない命綱になります。

例えば首輪などは、はぐれてしまい放浪する時間が長期にわたってくると痩せて抜けてしまいます。しかしマイクロチップであれば、身体から落ちることはありません。インターネットが復旧してからはなりますけれども、検索し、飼い主を見つけることができます。現在、日本獣医師会では、マイクロチップのデータベースを、東京と関西と2箇所に用意し、東京が被害にあっても、関西でデータ検索できるような対策もっておりますので、迷子対策の一つとしてご検討いただければと思います。

屋外の巡回診療に備えることも必要です。

犬の場合は繋留したまま外で診察いただけますが、猫の場合は、逃げてしまうことを考えると、屋外で猫をキャリーバッグから出すことが困難です。

猫にはメッシュタイプのネットを用意しておけば、屋外でもある程度の診療ができます。

病気治療中の動物を飼っていらっしゃる方は、診療情報や、薬の記号番号を携帯電話で写し保存しておくことをお勧めします。持病の薬飲んでる方もぜひご活用ください。この記号番号と用量があれば、病名や薬の名前が正確に言えなくても、獣医師の先生方は、ある程度の投薬の判断ができます。

また、キャリーバッグについてはプラスチック製のものは経年劣化することにご注意ください。避難の混乱時に何かにぶつかり、緩んだ留め具が外れ崩れてしまうことがあります。避難する時に見栄えは悪くてもキャリーバッグをガムテープでひと巻きするといった分解防止策を講じておくことも、迷子対策になりますので、覚えておいていただければと思います。

何も持ち出せなくても、手に入るもので工夫することも防災力、飼い主力だと思います。

犬用の食器が持ち出せていなくても、食べやすくするために余分な首輪に盛る、お水を豆腐の空パックで飲ませるなど、飼い主さんが工夫されているケースがありました。

猫トイレ用の砂がない中で、ダンボールに砂を集めてトイレを作っていらっしゃる飼い主さんもいらっしゃいました。

私はよく「カッター」、「マジックペン」、「ガムテープ」を用意してください、と申し上げていますが、この3つを活用し、貼り紙にする、ケージの中にいる動物の情報を明示する、名札代わりにする、段ボールを加工してハウスを作るなど工夫していただければと思います。また、新聞紙を細く裂いてトイレにするなど、手に入るものを利用して動物を守っていく、ということを考えるのが飼い主力・防災力だと思います。

最後に大事なことをお伝えして終わりにしたいと思います。

避難所には、被災し、家族を失い、財産を失い、ペットを失った方もいらっしゃいます。

心に大きな傷を負った方がたくさんいらっしゃいます。

避難所では、家族を亡くされたり、行方不明になってしまった直後の人々のお気持ちや状況を思い遣ることが必要です。その上で、避難所でペットとともにどう暮らすのか、ということを考えていただければと思います。



家族を亡くし、ペットを亡くし、財産を失い、心に大きな傷を負ってしまうのが、大規模災害の被災地です。普段以上に周囲に配慮する気持ちが必要です。

大事なことは、そのような配慮も含めた、防災力と飼い主力を高めることです。

辛い話もしてしまいましたけれども、被災して避難してらっしゃる飼い主さんが、そばにいるペットのことをお話しされる時、笑顔を見せてくださいます。

人は守るものがあるときにこんなにも強くなれるのだな、と痛感します。

人と動物とが共に災害を乗り越えるために、家族の一員であるペットを守るためには、飼い主力、防災力を高めること。

それが、皆さんと、家族と、地域と、ペットを守っていくことなのです。

私たちには、過去の災害に学ぶ力があります。

失われた多くの尊い命に学び、備えていくことが、大きな犠牲に報いることではないかと信じております。

この機会に、家族とペットが、みんな無事に避難できるように、そして、地域の防災力を上げるために、何ができるか、ということをご検討ください。

以上で私からのお話を終わらせていただきます。

ありがとうございました。